

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

(平成 30 年 3 月 7 日 午前 9 時 45 分)

●議長 (小林幸雄) おはようございます。御苦労さまでございます。ただいまの出席議員は全員であります。本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配布のとおりであります。

日程第 1、通告による一般質問を行います。質問時間は、最大 1 時間を目途に質問者、答弁者は進行に御協力願います。また、答弁者及び質問者の都合により質問の順序を変更することがありますので、あらかじめ御承知願います。また、質問者と質問者の間に、10 分程度の休憩をとることといたします。

通告の 1 森山木の実議員。

- 1 信濃町の医療体制について
- 2 基金の状況について
- 3 31 年度予定の新しいゴミ収集方法について

なお、資料の配布を求められておりましたので、許可をいたし、お手元に配布済みでございます。

議席番号 9 番・森山木の実議員。

◆ 9 番 (森山木の実) おはようございます。議席番号 9 番・森山木の実です。

最近、大きな災害が多いような気がするんですが、3 月 11 日まであと 4 日となりました。東日本大震災から 7 年も経ちますけれども、今でも約 3 万 5 千人ほどの人が仮設住宅で暮らしておられるそうです。

一方、原発から 20 キロ圏内の檜葉町は、避難して町外に住むことになった方々がいるわけですが、この 3 月末には町外にある仮設住宅の提供が打ち切られることになり、全員が退去を迫られているそうです。原発からはまだまだ放射性物質が拡散されている中、スーパーも訪問介護もない檜葉町に帰るのか、町外に移り住むのか、選択を迫られているそうです。長野県内にも放射性物質を含む廃棄物の処分場建設計画があり、原発から遠くても、人ごとと軽く考えず注意していきたいと思います。

では質問に移りますが、今日は「信濃町の医療体制について」「基金の状況について」「31 年度予定の新しいゴミ収集方法について」の三点につきお聞きしたいと思います。

まず最初は質問の前ですが、町長にお聞きしたいのですが、町長は町長になって「是非ともこれをやりたかったんだ」と、「やりたいんだ」と思われて決意されたこととは何でしょうか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

■町長（横川正知） おはようございます。森山木の実議員さんの御質問にお答えをしたいというふうに思います。私、26年の11月にこの立場に立たせていただいたわけでございます。一番やりたかったことと申しますか、やはり信濃町の今置かれている状況、これやっぱり人口減少だということでございます。このことは極めて今後の町政運営と申しますか、町づくりにおいても大変大きな影響を与えるということでございます。あえて申し上げれば、そのことに立って、どう今後の町を運営するか、ということが一番の立候補の目的でございます。その他にも当然ありますけれども。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9番（森山木の実） 人口減少の解消みたいなことですか。解消、人口減少の中でこれからの運営をする。そういうことでよろしいですか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 常々申し上げているんですが、大きな流れの中での人口減少というのはやむを得ない状況があるなど、ただ、このことをいかに軽減をするかということをしっかりしていかないと、町全般の運営に関わって将来に向けても大変な町づくりになってしまうという思いでございます。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9番（森山木の実） 多分財政にも影響する、そういうことからだと思います。病院も大きな事業ですね。病院について聞き始めたいと思うのですが、この大きな事業なんですけれども、これまで同僚議員が入れ替わり立ち替わり一般質問で取り上げております。病院建設について、町長の公約にも書いてありました。やはりこれだけ議員が質問していくというのは、町民にとって病院はやっぱり大きな関心事だろうなと思います。病院というのは、現在町が構築しようとしている地域包括ケアシステムの中に位置づけられる、医療を提供する施設ですよ。この地域包括ケアシステムの中で、介護や予防、住まい、生活支援と連携している要素です。ケアシステムの核になる施設なんだと思います。今日は病院に焦点を絞ってお聞きしたいと思います。先ほど町長がおっしゃられたその人口減少の中で、どういう医療体制を作っていくか。そのことを聞いていきたいと思います。よろしく願いいたします。さて、9月の一般質問のときにもお尋ねしましたが、議論の前提としてもう一度はっきり確認しておきたいと思います。病院の建設は「する」ということでよろしいんですね。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

■町長（横川正知） 私の公約そのものでございまして、病院建設は進めますということで、その前段階として今いろいろな取り組みを慎重に対応させていただいているということでございます。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9番（森山木の実） 進めるということは「する」ということで、それを前提にお話していきたいと思います。財政も大切だと思いますけれども、信濃町の町民という人間を中心にした議論ができればと思います。「信濃町の医療体制はどうあるべきと思いますか」というのを9月にも聞いたんですが、あまりはつきりしたお返事をいただけなかったような気がするんですね。もう1回「信濃町はこういう医療体制だといいな」と、町長の夢でもいいので「こんな体制でやっていけたらいいな」というのをちょっと聞かせていただきたい。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 今いろいろな段階で検討もさせていただいているんですが、私自身は町民の皆さんが健康なり具合が悪くなったという時に、やっぱり、かかれる、しっかりと診ていただける、その病院という医療の在り方というのは大事なんだろうなというふうに思いますし、それからまた刻々とかう時代が変化しまして、高齢化も進んでいるわけであります。そういったことも含めて医療として最終的にこの地域で提供できるシステムというのはどういうことかなということが、今大事なことじゃないかなというふうに思っています。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9番（森山木の実） 提供できる、その皆が診てもらえる医療を提供できるシステムが大事とおっしゃいましたが、どういうシステムを想定しておられるのでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） どういうシステムと言いましても、例えばいわゆる初期診療をしっかりしていただく、それからもう一つは、さっき言いましたように、時代背景の中で専門病院なり救急病院なりでこう過ごして、そのことが地域の中でまだ自宅へも戻れないというようなことも含めて、そういったことにも対応できる部分については、しっかりと対応できるというような医療の提供というのは必要になってくるのかなというふうに思っています。

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9 番 (森山木の実) わかったようなわからないような、なんですが、前よりは何となくボーッと見えてきたような気がします。この間も、昨日もちょっと言いましたけれども、障害者の方も高齢化してくるわけです。病気もします。その時にどういう医療体制ができていくかというのがすごく大事だなと私思っ、そここのところは大事にしていきたいと思うわけです。もうちょっと明確に、こうこうこうと言っただけだと良かったんですけども、例えば病院の規模について、100 床以上がいいとか、また 19 床以下にしようとか、そういうことを頭の中では何となく思い描いておられますか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 今、その数的なことを導き出すに当たっても、そのプロジェクトにお願いをして、様々な分野から検討して進めるといっことでありますし、もう一つ大事なことはやっぱり、信濃町の運営そのものを考えたときに、将来にわたって経営というものをしっかり、やっぱり考えておかなきゃいけないだろうと、こういうことでございます。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9 番 (森山木の実) 私思うのですけれども、「身の丈にあったサイズ」とよく前の町長も言っていましたけれども、これ財政ですよ。経営できるサイズだと思っんですね。だけど、この人口だからこのベッドとか、ベッド数とか、この財政規模だからこのベッド数だとか、そういう根拠で、規模ですね、ベッド数を決めていくのは、これは普通の町長さんの考えることです。福祉が服を着て歩いているような町長さんの考えることは、まず住民にどんな医療を提供しようか、そのためにはベッドは何床にしようか、何床が適当か、病院の規模は小さくても在宅医療を充実させようとか、そういうことではないかと思っのです。病院の場所はどこにしたら皆が便利か、ベッド数はどうしよう、診療科目どうしよう、地域包括ケアの核としての役割をどうもってこようか、他の病院との連携、それから訪問看護ステーションについてはどうか、高齢化と人口減少に対応する病院の経営は、検討委員会の答申の扱いは、などなど、まずここを考えた上での病院の規模だと、ベッド数だと思っのです。ですから経営から入っていくよりは、「町民にとって、こういう医療を提供する」という姿勢から、ベッド数を考えていったらどうかと思っのです。こういうことが全部情報としてプロジェクトチームに上がっていけば、プロジェクトチームも将来にわたる経営戦略も情報だし、こんな病院にしたいんだと、他の病院との連携はこうしたいんだと、町のリーダーがトップがおっしゃれば、それを情報としてプロジェクトチームも議論していけると思っのです。プロジェクトチームというのは、そういうことを話し合っているんじゃないですか。今はどういっ

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

とを話し合っているんですか。

●議長 (小林幸雄) 和田副町長。

■副町長 (和田勇人) 病院施設整備のプロジェクトチームの委員長というような立場で、お話をさせていただきますけれども、今議員さんがおっしゃられたような問題点、課題等を今検討している最中です。ですから、一概に経営だけでなく、また規模だけでなく、一番町民の皆さん、あるいはかかる患者さん、あるいはまた地域で暮らす皆さんの施設をどのような形で作り上げたらいいいのか、その辺を事務的レベルの中で今検討しているところであります。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9 番 (森山木の実) その協議の中で、病院と行政の考えで、一致したことと、一致していないこと、たぶんあると思うのですけれども、ちょっと具体的に教えてください。

●議長 (小林幸雄) 和田副町長。

■副町長 (和田勇人) 議員さんも御存じのとおり、この病院につきましては、平成 27 年の 3 月に病院在り方検討委員会からの答申を受けております。その中で、理想とする病院の規模、施設等がうたわれているわけですが、今現在各それぞれの機関の中で調整しております。議会側からも平成 28 年の 10 月に政策提言というようなことで今お話されているように、地域包括ケアシステムの在り方についても一緒に検討しております。その中で、当然、医療側、それから行政側等の意見の食い違いは当然あります。ですからその辺を今それぞれすり合わせしておる中と、あと在り方検討委員会が出された内容について、今現在のこの検討委員会での考え方それぞれの材料提供として、その辺の相違のあるところを今検証しながら、このプロジェクトチームの中で地域医療についてのワーキンググループも今立ち上げております。そのような中で、病院、それから行政側それから各団体等も含めた中での協議を、今やっているところであります。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9 番 (森山木の実) どういう点が、何となく一致せずにすり合わせているんでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 和田副町長。

■副町長 (和田勇人) 具体的にこれとこれという形ではなく、先ほど言いましたように

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

規模的なこともこれから最終的に詰めるところであります。ただ、理想とするものがそれで将来的に経営的にも良いのかどうか、その辺と、あと、今ない施設についてこの信濃町に求められている施設もごございますので、複合的な施設を造るに当たっては、それらも関連した中で検討を進めておるところであります。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) 今ちょっと出た、「ない施設」とは何ですか。

●議長 (小林幸雄) 和田副町長。

■副町長 (和田勇人) 今回、この検討委員会の中でも時間があれば、それぞれ視察等で検証すればいいんですけども、それぞれ 15 人の委員が全て出向くというのが、なかなか日程が取れないというような中で、県内では最近建設した辰野病院、それから議会の皆さんも所管事務調査で行った、山形の真室川病院、それらの施設の内容とも見させていただく中で、私どもの方で今現在足りないところと言いますのは、高齢者住宅あるいは老朽化している保健センター、それらが今地域的には同じような場所にありますがけれども、一体的でないわけですよ。ですからその辺も一体的な施設整備ができれば理想だというようなことで、合わせて考えております。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) そういうことはつまり、この大きな信濃町なりの地域包括ケアシステムの中の医療の部分に位置づけられる、そういう考えでよろしいのでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 和田副町長。

■副町長 (和田勇人) 医療の部分もありますけれども、介護の部分、それからいわゆる住まいの部分、それらも含めて考えておまして、またそれらの方たちが自宅へ帰られたときの在宅の支援、その辺も含めた中で今検討しておるところでございます。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) やっぱりお医者さんたちは、せっかくこうやって、へき地に来てくださって病院で患者さんを診てくださっているけれども、まだ来ただけということもありまして、地域とか地域の人の状況をよく知っているとは、ちょっと言いがたいですけれども、だから信濃町は、こういう土地で、地域はこんなで、人々の暮らしはこうなんだから、これこれこういう医療体制にしたい、特に核となる病院は、こういう形

にしていきたい、という構想を、まず医療関係者に伝えていただけると信じております。財政の問題の前に。その全体の構想ですね、地域包括ケアシステムの構想を見える形にしていくのがトップの役割であって、病院の開設者の役割なんだと思います。事務的なことは、それこそ副町長に任せることもありなんですけれども、町民がこれだけ「病院はどうなった」と、「自分たちは病気になったとき、けがをしたときにちゃんとこれからも診てもらえるのか」、「もし自分が動けなくなったときに公共交通はどうなっているのか」、そういう不安があるんですね。「病院はどうなった」と、その一言の中に、不安がいっぱい入っているんですね。ですから、もうちょっと情報を出していただけるとありがたい。自分は、こうしたいんだと。町長は、なかなか、わりと慎重で、なかなか口に出さない。慎重と言えは聞こえはいいんですけども、もうちょっと、実現するかしないかは別として、「自分はこういうことをしたいんだよ」というのを言っていただけると、こっちもこんなにしつこくは聞かないんですけどね。参考にしてくださいとは言いませんけれども、28年に先ほどちょっと話に出ました議会が町長に出した政策提言、去年の2月に回答いただいております。その回答について、今の進捗状況はどんななのかとお聞きしたいと通告しましたが、全部だと長くなるので、一つだけ紹介します。「信越病院の建て替えへの道筋と、今後の経営の見通しを明らかにするため、マスタープラン、基本構想ですね、マスタープランの策定を急ぐこと」こういう提言が、項目が一つありました。信越病院からの回答なんです、「医療・介護を取り巻く社会情勢と、専門家の意見を加味し、できる限り早い段階で策定できるように努めます」という、こういう回答をいただきました。これは病院からの回答だったんですが、町長にお聞きしたいんですね。開設者である町長は、このマスタープラン策定については今どうお考えでしょうか。

● 議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 慎重でと言われれば、まさに慎重なんです。私、この事は本当に将来にわたって大事な問題ですから、したがって慎重に、より慎重に対応したいという思いでやっているわけでございます。そういう中では、今、何と言いますか根っこの部分という大変失礼なんです、それぞれ様々な各方面からも検討していただいているわけでございますので、それらのまとめといいますか、見ながら、いつ、どういうふうな状況で、マスタープランにしていくかということになるかと思っております。まだ、時期的にどうのこうのと言える段階ではないですし、あまり先走って私自身が、森山さんが期待されているのかどうなのか、私が「もっとはっきり言いなさいよ」と、こういうことを言われているようでございますが、しかしこれは先ほども言いますように、それだけに慎重にやらなければ、進めなければいけない課題だということでございますので、したがって、よほど慎重に対応させていただくということでございます。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) 石橋をたたき過ぎて、石橋が壊れないようにお願いいたします。今、病院の方からの回答と言いましたけれども、病院だって町長を飛び越して勝手にマスタープランを作るわけにはいかないと思うのですね。事務長どうですか。

● 議長 (小林幸雄) 北村病院事務長。

■ 病院事務長 (北村政光) おっしゃるとおりかと思えます。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) そうだそうです。町のトップであり病院開設者でもある町長が、さっきからしつこく言うておりますが、信濃町はこういう医療、それからこういう全体のシステムを目指したいと表明してからでない、やはり病院も動きが取れないんじゃないかと思えます。大体、提言に対して、「努めます」「検討します」「できるだけ早く」は常套句ですけども、じゃ実現するかというと、これはトップのやる気が問われてしまうのではないのでしょうか。だから、慎重なのはいいことだとは思いますが、そろそろ慎重の皮をはいで、どんと、町民が待っていますから、町長の宣言を「病院作りますよ」と。「まだできるんかい」と、もうあきらめの境地になっている人もいますから、「俺の生きている間にはできないな」と。だけど、もしかしたら自分の子供の世代の時には、もうちゃんとシステムができていて、その中の病院もちゃんとできているかもしれないと思えば、まだ少しは明るいですけれども、できるだけ情報を町の人に出していただきたいと思えます。その先ほどの提言を作るにあたりまして、私たちは町の人 450 人に、対面で、対面ですよ、走り回って対面で、医療に関する聞き取り調査をしました。その調査を集計・分析して出した結果が、あの政策提言でした。ぜひ真摯に受け止めていただいて、病院のマスタープラン策定を急いでいただきたい。そしてそこから住民のために病院建設を進めていただきたいと要望いたしまして、次の質問に移ります。

町の貯金のお話をしようと思えます。お手元に、議長の許可を得まして、このグラフですね。これ棒グラフです。私そんなに数字に強くないので、これ必死で作ったんですが、これは信濃町の財政調整基金と、その取崩し額の推移です。オレンジ色が取崩し。平成 13 年から 28 年での金額をグラフにしてあります。決算カードを使いました。信濃町のホームページによると、財政調整基金とは「地方公共団体における年度間の財源の不均衡を調整するための基金」。これ信濃町のホームページにこう書いてあります。まあこのとおりなんですけれども、これだけじゃないと思うんですね。町長にお聞きしますが、この財政調整基金は、どういう目的で積み立てるのか、町としては、どういう認識を持っておられますか。

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

● 議長 (小林幸雄) 横川町長。

■ 町長 (横川正知) 平たく言えば、財政調整基金については、時々行政運営における資金不足、このことについて対応する。このことをもって財政調整基金を積み立てているということでもあります。細かくはあまり言ってもあれなんだと思いますが、時の行政需要にどう対応するかと、そのときの財源として基金を活用させていただくと、こういうことだろうと思います。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) そういう使い方にしては、やけにこの取崩し額、取り崩した後もものすごくたくさん残っているんですけども、それは置いておきまして、この財源不足を補うために使われる基金、私ならこの「やりくり」じゃないかなと、家庭でいえばお財布のやりくりなんだろうなと思っています。実質収支が赤字になりそうな時とか、そういう時にこの財政調整基金から取り崩して調整したり、突発的な大災害の時に使われたりすると聞いております。このいろいろ言いませんけども、剰余金が生じた時に 2 分の 1 を下回らない額を、翌々年度までに積み立てる、そういうことになっている。そういうことですね。この適正規模なんですけれども、大体標準財政規模の 10 パーセント、小さな自治体なら 20 パーセントぐらいが適正と言われているそうです。家庭でいえば普通預金。信濃町で言えば、標準財政規模は大体 36 億近辺を行ったり来たりしておりますから、その 20 パーセントだと大体 7 億前後になると思います。このグラフを見ますと、21 年度までは取り崩しながら 5 億～7 億ぐらいの間を上下しているんですけども、年々この財政調整基金が増えていって、先ほども言いましたけれども、取り崩してもまだまだ適正規模をはるかに超える額が残っています。この 27 年度などは 11 億 9 千万残っていますし、28 年度には 11 億 3500 万円残っているということなんですけども、こんなに残してどうするのだと、私が普通の庶民感覚ではそう思うわけです。財政には深い思惑があるのかもしれないけれども、私などは財政が厳しい厳しいと言いながら、「貯金は多いじゃない」、「こんなにあるじゃん」と思ってしまうんですが、この、何で、このどんどん増やしてきたのか、町の見解を聞かせてください。

● 議長 (小林幸雄) 高橋総務課長。

■ 総務課長 (高橋博司) 数字的なことでありますので、私から回答させていただきます。森山議員様の 13 年からの財政調整基金のグラフをいただきました。ありがとうございます。私どもとしましても、今回当初予算書と一緒に配布させていただきました、平成 30 年度当初予算案の概要の 5 ページに、平成 21 年度末からではありますけれども、その財政調整基金と主要 3 基金と言われます減債基金、公共施設等整備基金。また、公共施設等整備基金の大きな施設整備に当たるということで、地域医療介護等総合確保基金の

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

年度末の残高の表を付けさせていただいております。その中で、委員のおっしゃるとおり、27 年度末の財政調整基金につきましては、11 億 9300 万円ということで、そちらをピークにしまして、その後減少をしてきております。平成 28 年度末には、11 億 3500 万円でございますが、今年度、今年度の末につきましては、見込みでございますが、9 億 5200 万円となる予定でございます。また、現在、当初予算を編成しまして、当初予算として上程をさせていただいておりますが、平成 30 年度末の見込みにつきましては、7 億 2100 万円という金額を見込んでございます。こちらの理由でございますが、平成 21 年度頃、財政調整基金も少なかったわけでございます。5 億円台でございましたが、この時点でも、学校の施設整備に当たる学校建設整備基金というものを積み立てておりました。現在も、地域医療介護等総合確保基金ということで、病院等の施設整備に当てるとということで、30 年度末の見込みで、5 億 4000 万円を当初予算で見込んでございます。残高を見込んでございます。こういう裏腹のものもございまして減少してきてございますが、27 年度をピークに、平成 30 年度末の財政調整基金につきましては、7 億円台になるという見込みでございます。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) 私、これがいけないことだとか、そういうことを言いたいわけではないんです。どうもこれは全国的な傾向だと聞きました。ただ、何と言いますか、合併した町村などが、合併特例債がなくなる、それを見越して今貯めていると、そういう話も聞いていますが、信濃町は特にそういうのだから、どうしたのかなと思って聞いているわけです。また、前の財務大臣ですが、「こんなにあっちこっち基金が貯まっているなら、交付税を減らしてもいいんじゃないか」と言ったようなので、これは大変と思ってグラフにしてみたんですね。ただ、この間、国会答弁で、国会中継を聞いていたら、総務大臣が「そんなことはしません」と、「地方は一生懸命貯めているんだから、そんな交付税を減らすなんてことはしません」と、野田大臣が答弁しておりましたので、ちょっと安心しました。それでも財政のプロでない私などには、これだけあるのなら、もしかして病院の積み立て、さっきもおっしゃいました、もっと増やしてもいいんじゃないの、とか、世帯主療養費の財源はバッチリあるんじゃないの、とか思ってしまったんですね。そのところを町長がどう考えておられるか聞きたかったんですけども、貯めた基金の使い方として、私、一番信濃町の財政を圧迫しているのは下水道じゃないか、そういうふうなことを考えているんですけども、この下水道の維持管理のために、こんなに多くなるのだったら財政調整基金がこんなにあるのだったら、下水道の維持管理のための特定目的で基金を貯められないかと思ったんですけども、そこはどうでしょうか。

● 議長 (小林幸雄) 横川町長。

■ 町長 (横川正知) 前段、森山さん、私、お話といたしますか地方もこれだけ基金があるじゃないかと、国の財務大臣が言われた、そしてまた総務大臣がそれに答えて「そんなことはさせませんよ」と、こういうことでございます。実は、全国町村会としても、各地方が地方自治体が貯めた基金というのは、そういういろいろな変動に対して、しっかりと計画的に積み上げてきた数字だということで、国に対しては地方の全国町村会としても「その基金をもって交付税を減額するようなことをやってもらっては困る」という要望も、当然しているわけでありまして。それを前提にしながら、前提といたしますか前段階申し上げさせていただいて、今、病院問題に対してその基金を回したらどうなのかということかというふうに思います。一般会計の今置かれている状況、57 億 8600 万ですか、という新年度予算編成をさせていただきました。この中でも、今年もいわゆる財政調整基金を取り崩す、あるいは減債基金を取り崩す、こういうことを財源を充当させていただいているわけでございます。通常の中での行政運営の中で、一般会計の中で今その 57 億 8600 万円という新年度予算の中で、これもう一つ数字からすれば、後でまた他の議員さんも御質問があるようでございますが、やっぱり経常的な収支の中で、その比率が 90 パーセントを超えてきているということなんですね。したがって、余裕のある財政運営ではないということが、今置かれている状況であります。もう一つは、今御提供いただいたグラフ、これ実は非常に私、当時助役時代だったことで思い出しますが、時の小泉内閣と言いますか、良い悪いは別として、三位一体改革として非常に地方が苦しんだ時期であります。こういう中で、なかなかその地方も基金を増やすだとかということではできなくて、段々段々減ってきたというのは実状があるわけでございます。そういう中で、全体の財政運営上は、今おっしゃられたその目的、基金のようなところにこれをもって回すというような財政運営はできないだろうなというふうに思います。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) 「下水道の維持管理の特定目的に積んでいったらどうか」と、ちょっと聞いたんですけど。

● 議長 (小林幸雄) 横川町長。

■ 町長 (横川正知) したがって、下水道会計についても、毎年繰り出し金として何億円か、今、出ているわけです、一般会計から。そういう状況の中で、あえて基金として下水道の特別会計用に返済と言いますか、経営上も含めて基金を特段別の基金を設定するという考えは、今の財政内容からして、とてもできる範囲じゃないということでありまして。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) もうちょっと長期的な展望が見えればいいなど、私なんかも思うんですけども、前に信濃町の財政シミュレーションをもらったことがあるんですね。学校建設のちょっと前ぐらいに。あれはもう使えないと思うんですけども、その後、一般質問でも財政シミュレーションを作ってほしいと要望したことがあるんですが、その時に「作らないと言わない」とそういうような答弁だったと思うんですけども、長期的な展望が町の財政にとっては必要だと思うんですけども、今そちらの行政の方では財政シミュレーションは作っていますか。

● 議長 (小林幸雄) 高橋総務課長。

■ 総務課長 (高橋博司) はい。2 年ほど前になりますけれども、病院建設というものがございまして、内部で財政シミュレーション的なものは作っております。ただその後、国の制度改正等によりまして、例えば地方創生関係の交付金が補正予算で付くなどして、大幅にそれぞれの年度で変わってまいりますので、現状ではその時点以降のものについては作成をしております。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) 「見せてください」と言おうと思ったんですけど、ないんですね。はい、わかりました。これ私すごく大事なことだと思うので、ぜひ作ってくださいと要望しまして、この財政の質問は終わりにしたいと思います。

次、最後の質問で、ゴミのことです。広報しなのにも載りましたけれども、いよいよ来年から可燃ゴミの処理が広域連合の焼却場の方に移行します。長野市の大豆島の今建設中の焼却場に持っていくこととなります。こうなると、町民にとって何が変わりますか。

● 議長 (小林幸雄) 高橋住民福祉課長。

■ 住民福祉課長 (高橋 徹) 今議員さんがおっしゃられたとおり、来年の 3 月 1 日から長野広域連合のゴミ焼却施設が本稼動になります。その前、10 月からになりますけれども仮運転が始まりますので、その時点から、一般ゴミにつきましては長野の方へ運び込むということになります。ただ、今予定している中では、ゴミを収集する日時、また収集の方法、今使っているゴミ袋、指定のゴミ袋、また分別方法につきましては、基本的には今までどおり変更なくお願いをしたいと思います。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

◆ 9 番 (森山木の実) 町民にとって不便になることは何だと思えますか。

● 議長 (小林幸雄) 高橋住民福祉課長。

■ 住民福祉課長 (高橋 徹) 広域化に伴いまして、どうしても直接ゴミを運び込むということになりますと、今までは町内にありました焼却施設への運び込みということで、距離的にも町内でするのでそれほどなかったんですけども、今後につきましては長野市まで運ばなければいけないということで、そういった時間がかかるということが一番の不便な問題となってくるかとは思っております。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) 例えば、布団を持っていきたいという時に、今まではあそこに、山の方に持って行けばよかったんですけども、今度私が布団が捨てたいと思った場合、大豆島まで行かなくてはいけないことになるわけですね。その対策も考えておられると思うんですけども、何か考えていますか。

● 議長 (小林幸雄) 高橋住民福祉課長。

■ 住民福祉課長 (高橋 徹) はい。粗大ゴミの処分につきましては、今も毎年行ってはいるんですけども、特に車をお持ちでない方を対象に、年に 2 回ほど、そういった粗大ゴミを御家庭まで訪問させていただいて、回収して、こちらの方で処分をするということをしております。ただその他の方につきましては、今までも御自分で運び込んでいただいております。基本的にはこの形を採りたいと思っておりますが、また今後検討していきたいと思っております。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) わりと、町の方から聞かれるんですよ、どうなるんだろうと。例えば飲食店経営の方がいますよね。これまでは、飲食店の方の営業で出たゴミは、自分で山の方に運んでいたんですが、今度いちいち、夏の繁忙期のお客が来ている時のゴミの量たるはすごいんですけども、そういう生ゴミだとかそういうものを、毎日とは、たぶんこれからは毎日は無理になると思うんですけども、1 週間に 2・3 回運ばなきゃならないと思うんですね、飲食店の方も。それはちゃんと飲食店の方たちは知っているんでしょうか。

● 議長 (小林幸雄) 高橋住民福祉課長。

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

■住民福祉課長（高橋 徹） これからになりますけども、商工会の方より名簿をいただいておりますので、また業者さんへの通知をさせていただきます。それと、去年からですけども、センターの方で、「31年3月以降、長野の方へ、広域になります」ということでチラシを配らせていただいております。そういったところで広報をさせていただいている状態でございます。

● 議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9番（森山木の実） 商工会に入っている人はわかる、「皆さん自分で運びなさいよ」と、そういうアナウンスをしているわけですか。

● 議長（小林幸雄） 高橋住民福祉課長。

■住民福祉課長（高橋 徹） はい。一般的には事業系のゴミにつきましては、事業主さんの責任で処理をしていただいております。ただ、ゴミのカレンダーにもありますが、収集日に、1回につき30キロ未満までであれば、収集所に出していただいても可能ということで、ゴミカレンダーの方にも記載させていただいておりますので、そういったところでまた対応をしていただければと思っております。

● 議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9番（森山木の実） では、飲食店経営の方も事業の方も、30キロ未満だったら収集日に出せると。町の指定ゴミ袋に入れば出せるということによろしいんですね。あと、この町に新しく引っ越して来られた方がいますよね。この中で、組に入らない人は、自分で今までもやっておられたんでしょうけれども、また組に入れない人、これまではクリーンセンターに運ぶことで何とかゴミを捨てていた人もいるわけです。それができなくなっちゃうんですけども、もしかしたらこういう方は「広報しなの」も届いていないかもしれない。こういう人たちへの情報提供と、これからゴミどうしようかなと相談されたときの対応はどうかございますか。

● 議長（小林幸雄） 高橋住民福祉課長。

■住民福祉課長（高橋 徹） 別荘利用の方ですとか、組に入っていらない方、そういった方を想定いたしまして、昨年よりセンターで直接チラシを配るということをやらせていただいております。基本的には、最寄りの自治会に加入していただくのが一番最善の方法だとは思っております。こちらといたしましても、総代さんに、未加入の方、ゴミ出しについては融通していただくようお願いをしていきたいと思っております。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) それはありがたいと思います。ぜひ、組に未加入の方も、組に、入れない方ですね、そういう方も、ゴミだけはよろしくと思っておりました。そういうふうに対応していただければありがたいと思います。だいたい、都会から来た人というのは、税金を払っている市民、町民なら、誰でも公平にゴミの収集サービスを受けられると、当たり前になっているものですから、組に入れられない場合の収集サービスが受けられないと知った時のこのショック、私は痛いほどわかるんですね。あそこの山に搬入することで何とか、しのいできたと思いますけれども、「これから大豆島に運んでください」と、軽く言われても困ると思いますので、今みたいな対応していただければありがたいと思います。また、ストックヤード、前の町長の時に、「ストックヤードを作ること考えています」とおっしゃっていましたが、横川町長は前の質問をした時には、「ストックヤードは考えていない」と答弁なさいました。今も同じ考えでしょうか。

● 議長 (小林幸雄) 高橋住民福祉課長。

■ 住民福祉課長 (高橋 徹) 広域化に伴うストックヤードの建設というのは考えておりません。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) 答弁したのは町長だったので、町長に聞きたいんですけど。今、どうですかね、ストックヤード。

● 議長 (小林幸雄) 横川町長。

■ 町長 (横川正知) 今、課長が言ったとおりです。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) 何で作らないのかなと思うのですが。理由は何かありますか。

● 議長 (小林幸雄) 高橋住民福祉課長。

■ 住民福祉課長 (高橋 徹) こちらの方でもいろいろと計画といいますか、調査をする中、計画を立てたんですけども、ストックヤードの必要性まではないということで、

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

ストックヤードを作らず、今の収集方法でやっていきたいと思っております。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) 君子豹変していいので、もししばらくストックヤードなしでやっていったとしても、後になって、やっぱりあった方がいいなと思ったら、ぜひ作っていただきたいと思います。徳島県の上勝町は、地域、地域に、ストックヤードというほど大きなものじゃないんですけど、毎日運び込めるものがあるんですけどね、収集場所が大きく。それで人が 1 人いて、そこで分別をして、置いて帰ってくるんだそうです。そうすると、分別もきちんとできますし、町民はそんなに近くにあるので不便ではないと。それをまとめて、近くの市の方に持って行くんだそうです。ストックヤードは、私はとっても便利でいいんじゃないかなと、分別もきちんとできるし、いいんじゃないかなと思います。もう一つ聞きたいんですけども、大豆島の方の焼却場の分別に関しては、かなり厳しく、こっちでは収集は別に変わらないとおっしゃいましたが、あちら側では収集、分別に関しては、かなり厳しくなりますかしら。

● 議長 (小林幸雄) 高橋住民福祉課長。

■ 住民福祉課長 (高橋 徹) 可燃物の分別につきましては、信濃町は今の信濃町の方法のままとなります。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) もう一つなんですけれども、大豆島に移行してからは、布団などは粗大ゴミの日にしか出せなくなるわけですね、私たち。ですね。運べば別ですけども。そうすると、「とにかく今の山のクリーンセンターに運べる間に、どんどん運びましょう」と、こういう現象が起きてくるのではないかと。実は私も、やっちゃっているんですけどね。せっかくゴミの減量、この間「広報しなの」で呼びかけていましたけれども、せっかくゴミの減量を呼びかけても、逆の結果になりそうな気がしますが、可燃ゴミが増えていくと、負担金に関わってくるんですよ。だけど、今もうすぐだ、もうすぐクリーンセンターがなくなると思えば、皆さん運んで行きますよね、大物は。このところの、逆の、逆行している感じがするんですけど、そこはどう考えますか。

● 議長 (小林幸雄) 高橋住民福祉課長。

■ 住民福祉課長 (高橋 徹) 今、議員さんがおっしゃられたとおり、駆け込みではないんですけども、北部クリーンセンターの方には春以降、粗大ゴミにつきましては多くなるだろうなという予想はしております。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9 番 (森山木の実) そうすると、負担金に関わってきませんか。

●議長 (小林幸雄) 高橋住民福祉課長。

■住民福祉課長 (高橋 徹) 持込みにつきましては、御自分で 10 キロ 100 円というなかでお支払をしてもらいます。その他の部分については、やはり負担金が増える可能性はあると思います。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9 番 (森山木の実) ちょっと私、不適當なことを言うかもしれないけれど、この広域のゴミ処理計画ですけどね、長野市のためにやったんじゃないかと、ちょっと思っちゃうんですね。信濃町は本当は、あそこの山のクリーンセンターを直し直して、もうちょっと使っていけたんじゃないかなと、それをこんなに急いで、何も広域連合のあんな遠い所まで、運ぶのにも今度ガソリン代がかかりますよね、そこまでなくて良かったんじゃないかなと、今でも思っていますけれども、そうなっちゃったので仕方がないんですけれども、普通の可燃ごみ収集以外は、収集以外は、全部変わるわけですよ。可燃ごみの収集は今までどおりではありますけれども、布団は持って行かなければならない。何とかしなきゃならない。また、変わるわけですよ。それは住民に、もっとしっかり説明しないと駄目だと思うんですね。いつも「広報しなの」に載せたからいいんじゃないですかと、そういう感じなんですけども、「広報しなの」を見たって、実際ちょっとわからないことが多すぎますので、相談窓口もほしいなと思います。それと、移住定住係なんですけど、新しく来る方には、しっかりゴミの処理のことを伝えていただきたい、「都会のようにはいかないぞ」、そういうことも伝えていただいて、環境を守るためにきちんと分別してるんだと、信濃町は。それと、負担金を減らすために可燃ゴミを減らして、他も廃プラもしっかり分別しているんだと、そういうことをちゃんと伝えていただきたいと思います。私が来た川崎などは、ビン、缶以外、全部可燃でしたので、そういうことをしていましたので、とても楽だった。そう言うのは何ですけど、楽でした。ただこちらに来て、環境を守るのは大切なことなんだなと思ったものですから、やっぱり川崎方式は、あまりゴミが少ないと、かえってダイオキシンとかが出ちゃうものですから、どんどん燃やせみたいになってきているんですね。そうじゃなくて、やっぱりこの長野県とか信濃町の環境を守るためにも、しっかり分別して、これから出していかなくちゃいけないなと思っています。そして、広報に載せて終わりじゃなくて、ちゃんと住民に説明して「相談窓口がありますよ」と、そういうふうをお願いいたします。とにかくしばらくでも、時間が、とにかくしばらくでもいいですから、本当にしばらくはこ

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録 (3 日目)

のままで町の計画どおりやってもいいですから、ストックヤードのことはちょっと頭に入れておいていただきたい。これから本当に高齢化です。なかなかゴミ袋を持って歩くのも大変、収集場所までね。民生委員さんにまたお願いしたりするんでしょうけれども、何とかちゃんと分別して皆さんが運べるようにしていきたいと思います。ストックヤード、よろしくお願ひしますと、強く強く要望しまして、私の質問を終わります。

●議長（小林幸雄） 以上で、森山木の実議員の一般質問を終わります。

この際、10 時 55 分まで暫時休憩といたします。

(午前 10 時 43 分)